

質問紙調査結果に対する主な分析

☆良かった点

- ・富士中生は、昨年に引き続き、朝は決まった時間に起きて、朝食を摂ることができ、規則正しい生活を心掛けている。(生活リズムについて)
- ・富士中では、ICT機器の活用の使用度が高く、学習の役に立つと思うと応えている生徒が、80%を超えている。また、学校以外で勉強に使う率も高い傾向にある。
(パソコン、タブレットなどICT機器に関する問いについて)
- ・富士中生は、部活動に意欲的に参加する傾向がある。
(部活動に関する問いについて)
- ・地域や社会をよくするために考えたり、地域の行事に参加したり積極的である。地域や社会をもっとよくしたい、という思いをもって生活できている。また、住んでいる地域を外国の人に知らせたいと言う思いをもち、外国のことも知りたいと積極的に考えられていることが、地域や社会での活動の原動力となっていると考える。
(地域、社会に関する問いについて)
- ・学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたり、互いの意見を生かして解決方法を決めていく活動に取り組む率が、昨年度より上向き傾向にある。物事を主体的に考え、解決に導こうとする力の育成が期待できる。
(学級で話し合う活動に関する問いについて)

☆課題と改善策

- ・課題…将来の夢や目標をもっていますか、という問いに当てはまると回答した生徒は、都平均より10%あまり低い傾向にある。
改善策…キャリアアップのための進路学習の一環として島内外での職場体験を実施している。多様な選択肢を学べる機会として、学習や発表の振り返りに力を入れる。
(将来の夢や希望に関する問いについて)
- ・課題…いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか、困りごとや不安を学校にいる先生や大人に相談できますか、という問い当てはまると回答した率が都平均より15%あまり低い。
改善策…SNS東京ルールの教材を使用してSNSいじめに関する授業を行ったが、友達の人権を考えた行動を一層促す。また、島内で幼少から生活や学びを共にしてきて、いじめが起きにくい環境であると考えられる。(いじめなどに関する問いについて)

- ・課題…自分で計画を立てて勉強しますか、1日当たりどのくらいに時間勉強しますか、という問いに対する回答が、都平均よりも10%以上低い傾向がある。

改善策…進んでチャレンジして自己肯定感を付ける前向きな声かけと共に、ICT機器を使った予習、復習などを一層呼びかける。また、各教科から自分に合った勉強方法を工夫できるような声掛けを行う。(学習に関する問いについて)
- ・課題…読書や新聞を読む時間が都平均より10%以上少ない傾向が見られる。また、読書が好きですか、という問いに当てはまると回答した生徒は20%少ない。

改善策…読書は勉強のため、という考えの生徒が多いと考える。朝読書を図書室で行い、興味をもつ生徒は増えている。学習時間と共に読書の時間をとりやすい土日、長期休業の時期に一層働きかける。(読書に関する問いについて)
- ・課題…1, 2年生の時の授業を振り返って、自分の考えを伝えるための努力は工夫できたと回答している生徒が40%に迫っている一方、課題解決に向けた取組や自分に合っていたかという問いには、当てはまると回答した生徒は10%前後である。

改善策…今年度は課題解決に向けて広く深く考えたり、話し合いでお互いの意見を生かして解決しようとする努力する成長した様子がみられる。教師側から考えを深め、生徒が意見を出すことができるよう指導方法を一層工夫することが課題である。
(授業、学級での話し合い活動などの取組を振り返る問いについて)

☆国語科、数学科、英語科への取組について

・国語科の傾向と分析

富士中生は国語の勉強を大切である、どちらかと言えば大切であると考えている生徒が90%を超えている。内容の理解に努力できている、どちらかと言えば努力できている生徒も80%を超えている。将来社会に出たときに役に立つ、どちらかと言えば役立つと回答している生徒も都や全国平均以上で90%を超えていて、勉強に積極的な態度が見られる。

・数学科の傾向と分析

数学では、学習内容がよくわかるかという問いに、当てはまる、どちらかといえば当てはまると応えた生徒が80%を超えていて、理解することができているようである。また、数学の学習は大切ですか、将来社会に役に立つと思いますかという問いでは、当てはまる、どちらかといえば当てはまるという応えが60%~80%である。今後一層活用を考えることで、学ぶ意義や理解を深めることにつなげたいと考える。

・英語科の傾向と分析

英語科では、内容の理解のために積極的に学習する様子が結果に表れている。将来社会に出たときに英語を生かしたい、どちらかと言えば生かしたいと回答した生徒が50%以上見られる。また、読む、書く活動で、自分の気持ちや考えを英語で表現する活動を重視した結果が回答率の高さに表れた。話すこと活動も、授業の取組の効果が表れてきているので、今後は発表活動に一層積極的に取り組むことで、より理解が深まると考える。